

# 人間文化学科・大学院人間文化専攻共催 第6回「比較古都論――町の成り立ち 人の往来――」公開講演会のご案内



## 人間文化学科・大学院人間文化専攻共催

### 第6回「比較古都論――町の成り立ち 人の往来――」公開講演会のご案内

#### ■ 第6回「比較古都論――町の成り立ち 人の往来――」公開講演会

京都ノートルダム女子大学(京都市左京区、学長:藪内 稔)は、人間文化学科・大学院人間文化専攻共催公開講演会を開催いたします。

**日時:** 平成21年10月17日(土)13:00~16:30

**会場:** 京都ノートルダム女子大学 マリア館 ガイスラーホール



クリックで拡大します。

#### ■ 内容

##### 第一講演

元リッチモンド大学美術史学科客員教員 ヴァレリー・ゴンザレス氏

#### 「古都におけるイスラームの美術と建築: 東洋から西洋へ」

<通訳付き>

ヴェレリー・ゴンザレス先生はフランスのエクサンプロヴァンス大学で博士号を取得されたイスラーム美術の専門家です。

本講演のテーマは、東洋と西洋におけるムスリム(イスラーム教徒)世界の古都にある美術と建築です。西暦7世紀のイスラームの勃興にはじまり、近代のオスマン朝、サファヴィー朝、ムガル朝帝国にいたるまでの時代に建てられた、名高く、代表的な建築物を観察することで、イスラームの文化的、制度的、芸術的歴史に関する主な論点を明らかにしていきます。

##### 第二講演

京都ノートルダム女子大学 人間文化学部 人間文化学科教授 五十嵐節子

#### 「聖母マリアの古都 アーヘン今昔(いまむかし)」

本学教授の五十嵐節子は聖母像を美術史の観点から研究しています。今回のテーマはドイツの古都アーヘンです。

古都アーヘンはゲルマン人が温泉の湧き出るところとして集落を営んでいた地です。ガリアに侵攻してきたお風呂好きのローマ人兵士も立派な浴場施設を建設し、戦闘の疲れを癒していました。9世紀になりカール大帝がこの地に宮廷を定め、その付属礼拝堂は聖母マリアに捧げられました。このお堂は現在、世界遺産に指定されています。カール大帝はエルサレムから四大聖遺物と称される「マリアの長衣、キリストのむつき、キリストの腰布、洗礼者ヨハネの斬首された首を包んだ布」を手に入れました。これら四大聖遺物の展覧会は1349年以来7年毎に現在まで続けられ、巡礼者が押し寄せています。支配者たちの敬虔さと権力欲の相乗作用によって生き続けている宗教都市アーヘンの歴史をたどります。

#### ■ その他 入場無料・申込不要

この講座に関するお問い合わせ 京都ノートルダム女子大学 教務学事課 TEL 075-706-3661